

令和6年度 児童発達支援センター 自己評価表

事業所名		四日市市児童発達支援センター あげぼの学園		公表日		令和7年 2月13日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容によって、環境を考えながら、適度なスペースで過ごすことを心掛けています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		絵カードなどを利用して生活に見通しをもつようにしたり、子どもたちが注目しやすい環境を心掛けたり、落ち着いて遊ぶことができるよう環境を整理しています。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日、おもちゃ・机などの消毒を行っています。口に入れたおもちゃはすぐに消毒をし、下痢・嘔吐などの感染症に対してはすぐに対応できるように準備しています。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		どこの部屋を何のために使用しているかが、一目瞭然にしてあり、空いている部屋を臨機応変に使用できるようにしています。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		常に業務の内容を見直し、目標設定を担当だけでなく、主任なども入って行い、評価反省をするようにしています。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		アンケートやノートでいただいた保護者様のご意向は真摯に受け止め、業務改善につなげています。また、週5グループの保護者会とは話し合いを持つ機会を設けています。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		打合せなどで意見を聞いたり、考えられるようになげかけたり、1対1で話をする機会を設けたりしています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		毎年、第三者評価委員会を開催しています。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		クラス配置を考えながら、できる限り、研修を受けることができるようにしています。また、園内研修で、専門職を講師にして学ぶ機会や発達の勉強など、視点の広がりにつながるようにしています。			

適切な支援の提供	11	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントを、担任だけでなく専門職と連携を取りながら、多方面から行うことができるようにしています。	
	12	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	13	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	14	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化された検査を用いた発達段階などの情報をもとに、職種ごとのインフォーマルなアセスメントの内容を記録に残し、情報共有を図るようにしています。	
	15	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	16	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		その子に関わる多職種が情報共有をして作成した支援計画に基づき、担任間で話し合い、活動プログラムをたてています。	
	17	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		他のクラス担任とも交流を図り、広い視点で活動プログラムを考えるようにしています。	
	18	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		支援実施ごとに、記録をとることを徹底し、それとともに支援を検証して、今後の支援に生かせるようにしています。	
	19	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日の環境設定をしながら、支援内容や役割分担の話をもとに行うようにしています。	
	20	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		個人の記録を一本化し、情報を共有しています。また、担任同士や他職種との話し合いを確保しています。	

	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		
	22	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	定期的な見直しを実施しています。	
関係機関や保護者との連携	23	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	できる限り参画しています。	
	24	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	必要に応じて行っています。	
	25	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	保育園・幼稚園・こども園とは、保護者の同意のもとに、連携を行っています。	
	26	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	年長児が利用しているときには、行っています。	
	27	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○	専門職が外部講師を積極的に受けたり、巡回研修などで、保育園・幼稚園・こども園を周り、アドバイスなどを行っています。	
	28	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○	専門職が同じ館内にいるので、連携を常にとることができます。	
	29	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○	自立支援協議会の会議に、積極的に参加しています。	
	30	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	週5日通園グループは、保育園・幼稚園・こども園との交流を行っています。	
	31	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	保護者とともに通う施設のため、日ごろから子どもの姿を通して、話すようにしています。	

	32	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	ペアレントトレーニングとは伝えていませんが、ペアレントトレーニングの内容をクラス懇談会で取り入れたり、お子さんの姿を目の前で把握しながら、保護者とともに関わり方や環境を考えることができる療育内容が、ペアレントトレーニングの目的のひとつを達成しています。	
	33	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時には、丁寧に説明をし、利用の際の不安や疑問などを少しでも軽減できるようにしています。支援プログラムに関しては、近々公表予定のため、公表後、契約時にも説明をしていきます。	
	34	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか	○		
	35	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		
	36	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		
保護者への説明等	37	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	保護者会は週5日通園グループのみですが、各クラス、懇談会などとおして、保護者同士の連携をとるようにしています。	
	38	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
	39	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	クラスだよりなど毎月発行したり、ホワイトボードを利用して発信したりしています。また、ホームページで各職種の支援内容などの案内を行っています。	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		
	41	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
	42	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	学園行事参加への声かけをしたり、地域への行事に参加したりしています。	

非常時等の対応	43	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	警察署員と合同不審者対応訓練を毎年1回実施。災害時の避難所開設にあたって、役割分担、備蓄管理、発電機操作なども行っています。	
	44	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	地震・火災・不審者対応を想定した訓練を、毎月行っています。	
	45	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		
	46	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	契約時に、管理栄養士のききとりを行い、安全に対応できるようにしています。	
	47	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	地震・火災などを想定した訓練を毎月行っています。	
	48	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		
	49	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		
	50	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	毎月、虐待防止委員会をひらき、情報共有をしています。	
51	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	身体拘束の適正化のための指針を作成・掲示して、周知に努めています。		